

2016年1月末の雨水害で、中途半端に倒れた木は多く、特に道からはづれた所は手つかずのままになっている。

中途半端になっている木の一つ形態は弓なりになったまま立っている木、唐松・白樺・栗の20cm前後の太さの物と、りょうぶ・こぶし・まんさく等の10cm前後の木で、弓なりの先端が他の折れた幹によって地面についたままになっている物があり、安易に根元を切ると、ものすごい力と速さでばねのように吹っ飛ぶ。

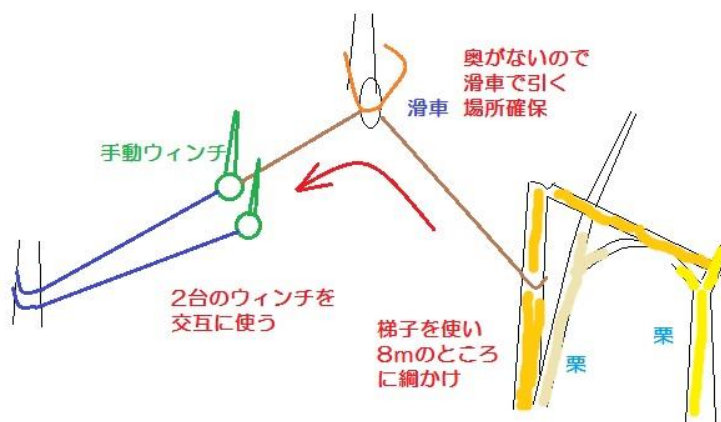
今回は、写真ようにの幹が折れて口型(唐松・唐松・地面・栗)を形成している中途半端な木を落ちて来る前になんとか切って安全を確保しようと思いました。



特殊なため今までの木を倒す知識以上に知恵が必要

となり、春先からどのようにしたらいいのか悩んでいましたが、隣の山本さんからのご協力を頂けるといことで、7月に中途半端に倒れた2本の栗の木を練習を兼ねて倒してみましたが、切っても倒れずロック状態になって1本は歯が挟まってしまった事などを話、今日山本さんと二人で実施に踏み切りました。

倒れる確信がないまま、第2案で行うことにしました。最初に、梯子を使って8mのところにロープを掛け、折れている方向とは逆な方向に引くことにしました、そのままの方向でロープを引



くスペースがないので、滑車を使い約90度方向を変えて、手動ウィンチに繋げました。

いよいよウィンチで引っ張り、ある程度(約30cm)引っ張ったところで、チェーンソーで切り込みを入れ、ツルを少し残すようにして切り、そこからはウィンチ勝負、更に30cm引っ張ったところで2台目のウィンチに、これで引きき、れればラッキーと思いましたが、3台目に託すことになり不安は広がりましたが、ウィンチ力がかろーじて勝り、カラマツの折れた箇所が引く力に負けて裂けてくれたので倒すことができました。これで引き切れなければ、ひっかかったカラマツの下での作業となり危険が増すことになっていました。

